

科目	心理学史	単位数	2
担当教員	相谷 登		
履修対象	心理科学科 4 年秋学期		
概要と目的	現代の心理学について、その起源から変遷、更には現在の形となった経緯について、おおよそ説明できるようにする。		
達成目標	「知識・技能」 (1) 心理学の起源について理解する。 (2) 現代心理学の背景について理解する。 「思考力・判断力・表現力」 (1) 現代心理学は、唐突に出来たのではないことを正しく理解する。 (2) 各種の心理治療や心理療法の学問的背景を理解する。 「主体性・多様性・協働性」 (1) 現代心理学の目指すものを正しく理解し、自らの行き方や職業志向に取り入れる。 (2) 心理学の今後のあり方について考えてみる。		
授業計画			
1	心理学の起源について考えていく。		
2	哲学を基礎とした連合主義の誕生と心理学との関連性について知る。		
3	心理学の基礎をなした感覚・知覚研究の誕生を知る。		
4	精神物理学の誕生と心理学との関連性を知る。		
5	ヴントの登場と心理学の独立について理解する。		
6	ヴント登場後の心理学の世界の動向について知る。		
7	動物行動学の登場と比較心理学について理解する。		
8	個人に眼を向けた個人差研究について知る。		
9	フロイトの登場と精神分析学について理解する。		
10	ウエルトハイマーの登場とゲシュタルト心理学の誕生について理解する。		
11	ワトソンの登場と行動主義について知る。		
12	新行動主義から現代心理学への潮流について理解する。		
13	認知心理学について理解する。		
14	日本における心理学の歴史について知る。		
15	心理学の全体的な流れの理解とまとめ。		
授業形態／具体的な内容	①講義／②講義 全般を通して、講義形式で実施します。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
心理学史～現代心理学の生い立ち	大山正	サイエンス社	2,200 円＋税金
参考書	「心理学のあゆみ」(著) 大山正・岡本夏木・金城辰夫・高橋滯子・福島章 有斐閣新書		
成績評価の基準・方法	〔基準〕 ①心理学の歴史の流れを理解し、②それぞれの現代心理学の影響性が理解できれば合格 〔方法〕 講義内に課す課題レポート(80%)、講義内で行う課題(小テスト)(20%)		
留意点	講義中の私語厳禁は言うまでもないが、大学の学びの集大成として能動的に考えて欲しい。		
準備学習	テキストは14章からなっており、各自で各回の授業前に該当する章を熟読し、レジュメとしてまとめておく事(2時間程度)。 授業終了後は、心理学に関する学習の総決算として、あらゆる知識を統合しノート等にまとめる(約2時間)。		
備考	定期試験の結果について知りたい者に対しては、試験実施終了後約2週間後から素点のみを伝える。	No.	PY621033